

ミャンマーの大学における CSR 特別講座

開催報告書

- CSR Workshop on
Business and Sustainable Development -

2016 年 2 月

株式会社創コンサルティング
海野みづえ

NAGATA

1. 目的

経済発展に弾みがつきだしたミャンマーでは、産業活動による地域環境の破壊や住民生活への影響などの社会問題が生じている。これらの解決のひとつとして、産業界はCSR実践や事業そのものを持続可能なモデルで展開する必要がある。そこで、ミャンマーの第二の都市であるマンダレーの二大学において、教職員と今後ミャンマー社会を担う学生に対してサステナビリティ分野の世界動向を解説し、人材育成の機会を提供する。

2. 日程と内容

A. ヤダナボン大学 (Yadanabon University)

ヤダナボン大学は、マンダレーの郊外に位置する国立大学で、主に学部生の高等教育に重点を置いている。21の学部をそなえ総学生数は2万人を超える。



	日程	内容	担当講師
1	2015年9月 14-15日 10:00 - 11:30	Business and Sustainable Development 1) 全体概要 2) ワークショップ	海野みづえ (創コンサルティング)
2	2015年12月 10-11日 10:00 - 11:30	日本企業の事例 1) 環境啓発型広告事業 2) グローバル CSR 活動 3) マイクロファイナンス	1) Thein Sann(長田広告) 2) Thiri May(三菱商事) 3) 綿引進(マルハンジャパン銀行)
3	2016年2月 2-3日 10:00 - 11:30	ビジネスと人権 1) ビジネスと人権解説 2) 観光業での影響評価	1) Vicky Bowman, Director 2) Thein Than Htay (Myanmar Centre for Responsible Business [MCRB])

- ・ 場所: ヤダナボン大学構内の教室
- ・ 参加者: ヤダナボン大学の教員 55 人(21 学部より各1~3 名)
(第 3 回は学生 20 人が追加に参加)

B. マンダレー大学 (University of Mandalay)

マンダレー大学は、マンダレー市内に位置する国立大学で、北部ミャンマー地域での最高学府である。学部数は 15 であり、大学院(修士課程、博士課程)ももつ。学生数 9,000 人。

- ・日程: 2016年2月2日 14:00 - 16:30
- ・内容: 14:00 - 14:05 開会
14:05 - 15:30 Business and sustainable development
海野みづえ(創コンサルティング)
15:30 - 16:30 Responsible business and environmental impacts
Vicky Bowman (MCRB)
- ・場所: マンダレー大学構内の講演ホール
- ・参加者: 学部、大学院生と教員合計 400 人(15 学部より)

3. 各講座の報告

A. ヤダナボン大学

A.1 第1回： Business and Sustainable Development

<第1日： 全体概要>

<Background>

- What is sustainable development?
- Why business is responsible for sustainable development?

<Business and sustainable development>

- Corporate social responsibility (CSR)
- Inclusive business

この分野についての世界動向や企業の事例について、主要なポイントを解説した。進行は英語で行い、質疑応答についても参加者からの英語による質問に答える形で進めた。受講者の間では”CSR”については「聞いたことがある」というほどの認識で、詳しい内容までは理解していない。今回はトライアルの開催であり、各学部から均等に1～3名の教授らが参加してその基本を学んでもらった。

特に関心のある環境・社会問題としては、森林伐採やごみ問題などミャンマーに特徴的で身近な課題があがった。



<第2日>

企業に取り組むべき CSR についてより具体的に理解するために、マンダレーで操業する魚加工会社をモデルとし、その会社の主要な CSR 課題について検討する演習を行った。4～5名ずつの小グループに分かれ、ISO26000 の7つの中核主題のうち環境、労働慣行と地域開発の課題について検討した後、グループ発表を行い全体討議を行った。

こうしたなかでも環境問題への意識、特に住環境や衛生への問題を指摘する声が強かった。



学長より記念品をご贈呈いただく

A.2 第2回：日本企業の事例

<第1日>

1) 環境啓発型広告事業(長田広告)

長田広告は、立て看板の広告スペース提供を主事業としており、ミャンマーにおいてもバガンとマンダレーで市内にゴミ箱を設置し、そこ広告スペースを付帯する事業を展開している。これは市の担当局のゴミ回収に協力する形で設置とスペースの許可を得るものだが、広告スペースにはスポンサーの広告だけでなく、市民のゴミ分別廃棄を促す公共的啓発文言を盛り込んでおり、環境対策に協力している。

さらにバガン地域では地元で展開しているプラスチック・キャンペーン(プラスチックゴミの回収分別活動)にも積極的に参画している。この活動は知事自らのイニシアティブで進めているもので、地域貢献が地元との信頼構築になり、同社ビジネスの次のステップにもつながっている。

ミャンマーではゴミのポイ捨てが問題になっており、受講者からも問題意識が強く、同社のゴミ拾い活動に強い関心が示された。マンダレー市内に設置されたゴミ箱を有効利用する意見も出された。

<第2日>

2) グローバル CSR 活動(三菱商事: MC)

1. MC's Corporate Philosophy
2. Creating Sustainable Corporate Value through Business
3. Snapshots for MC's Global CSR Activities
4. CSR Projects in Myanmar

グローバルに事業展開する三菱商事は、CSR の分野でもパイオニアである。講座ではミャンマー事務所の現地担当職員より、グローバルの事業展開の基本とある創業時

からの経営理念の説明に始まり、世界各地での実践例が紹介された。ミャンマーでは、農業に伴う地域開発への支援を中心に行っており、国際組織への協力や寄付、大学や研究活動の支援などの多くの活動を行っていることを説明した。



3) マイクロファイナンス(マルハンジャパン銀行)

1. What is Microfinance?
2. Microfinance and CSR
3. Microfinance in Myanmar
4. About Sathapana Limited
5. For Future Development of Myanmar

同社はアジアでは銀行業務を行っており、既にカンボジアではマイクロファイナンス事業を展開している。その経験をもとに、2015年よりミャンマーでもマンダレーの農村地域からこの事業をスタートしている。講演はヤンゴン事務所長により英語で行なわれ、質問についてはミャンマー事業の立ち上げを実質的に担当しているカンボジア人のスタッフが対応した。

マイクロファイナンスは世界の貧困問題を解決する経済的手段として、多くの開発途上国で展開されている。まずその仕組みと体系を解説し、これが低所得地域での地域発展と社会問題の解決に寄与することを説明した。その後ミャンマーでのマイクロファイナンスの実状および同社のミャンマーでの経験を紹介した。

マイクロファイナンスの仕組みについては、関心のある受講者の間には知られていたが、実践の有効性などにさらに興味を持たれた。

A.3 第3回: ビジネスと人権

<第1日>

MCRB は、ミャンマーでの責任あるビジネスの推進を目的に設立された NGO である。イギリスや北欧などの欧州政府の資金を得ており、ミャンマーの市民社会の意識を喚起すべく、主要産業セクターごとの調査や政府への働きかけなどを行っている。

まず責任あるビジネスとは何か、企業が取り組むべき人権とは何かの全体説明を行った。代表の Bowman 氏はミャンマー語が堪能であり、現地語で進行したため受講者からより深い理解が得られた。また、オンライン投票デバイスを活用し、参加者それぞれが関心をもつ社会課題をスイッチ投票してもらい、その場でスクリーンに結果を映し出す工夫があった。参加型の仕組みで一気に受講者との距離感が近くなり、進行がスムーズになった。



<第2日>

マンダレーに関連するトピックとして観光業に焦点をあて、このセクターの主要な社会・環境問題に関わる人権課題について掘り下げた。ここでもゴミ問題への関心が多く寄せられ、受講者間の意見や提案が活発に繰り広げられた。今回は学生も参加しており、意識の強い学生からの意欲的な発言が印象的だった。

観光業はミャンマーの主要産業であり、そこと人権課題を関連づけることで、この問題の理解を深めることができたようだ。投票デバイスの活用も受講者を積極的に参加させるための良い工夫だった。

B. マンダレー大学

B.1 講演1: Business and sustainable development

ヤダナボン大学の第1回の講座で解説した内容をマンダレー大学において講演した。今回は大ホールでの講演となり、大学側より英語からミャンマー語への通訳が入った。参加は学部生と大学院生が中心だが、積極的に質問をした方たちは教員の参加者だった。



B.2 講演2: Managing social and environmental impacts of business

午前中にヤダナボン大学の講座を終えているので、その内容を踏まえてビジネスと人権の講演を行った。セクターの事例では、ミャンマーの主要作業である鉱山業などの現状を話題に盛り込み、参加者にとってより身近な状況を話題にしたことで関心を引き付ける内容となった。

4. 講座を終えて

旧政権のもとでは政府からの指示にもとづく教育が中心であったが、今後は大学が自ら研究や次世代を担う若手の人材育成を進めることが求められているところである。授業の仕組みや研究テーマなど改善すべき課題は多いため、海外からの協力は歓迎であり、外部講師による講座や交換留学に関心は大きい。

またCSRへの関心以前に、環境問題や地域社会の課題について学ぶプログラムが必要だろう。他者から学ぶだけでなく、自らがこれらに取り組んでいく自発性や創造性を促すような教育方向をつくっていくことが必要だと感じた。

5. 開催主体

・企画、推進： 海野みづえ(株式会社創コンサルティング 代表取締役)

・主催： 長田広告株式会社

愛知県津島市を本社とし、看板広告を中心とする広告業を展開。
日本全国 77 か所に支部をもち、海外では 2014 年 10 月にヤン
ゴン事務所(ミャンマー)を設立して展開している。

6. 参考資料： 地元の新聞に掲載された講座開催の記事

Global New Light of Myanmar, 21 September 2015

4 LOCAL NEWS THE GLOBAL NEW LIGHT OF MYANMAR 21 September 2015

CSR workshop held in Yadanabon University



MANDALAY — A workshop on Corporate Social Responsibility was organized by Managing Director Miss Mizue Unno of So-tech Consulting Inc in Yadanabon University in Mandalay on 15 September.

Rector of the university Dr Aung Min and 50 faculty members participated in the discussions facilitated by President Mr Nataga Ichiro of NAGATA (Japan) Co., Ltd, Managing Director Mr Takeshi Shirashi, Project Director U Thein San and business consultant U ZawNaing.

NAGATA Co., is a service company providing CSR services including clearance of waste in Mandalay and Bagan and promotion of techniques of Karatedo in Myanmar.—Tin Maung (Sub-printing house in Mandalay)

Corporate Social Responsibility workshop focuses on clearance of waste in Mandalay and Bagan and promotion of techniques of Karatedo in Myanmar. PHOTO: TIN MAUNG